

貸借対照表

2023年5月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	167,179,165	流動負債	141,476,071
現金及び預金	66,781,465	未払金	8,265,766
業務未収入金	69,188,304	前受金	4,198,410
前払費用	1,481,711	短期借入金	64,000,000
未収入金	29,698,315	未払法人税等	1,038,300
立替金	29,370	未払消費税等	8,316,378
		未払費用	9,740,985
		預り金	5,152,684
		賞与引当金	40,763,548
固定資産	19,568,040	固定負債	11,324,730
有形固定資産	68,040	退職給付引当金	11,324,730
器具備品	68,040		
投資その他の資産	19,500,000		
繰延税金資産	19,500,000		
		負債合計	152,800,801
		純資産の部	
		株主資本	33,946,404
		資本金	20,000,000
		利益剰余金	13,946,404
		その他利益剰余金	13,946,404
		繰越利益剰余金	13,946,404
		純資産合計	33,946,404
資産合計	186,747,205	負債及び純資産合計	186,747,205

(注) 当期純損失 7,128,799 円

注 記 表

自 2022年 6月 1日

至 2023年 5月 31日

I 重要な会計方針

1. 固定資産の減価償却方法

- (1) 有形固定資産一定率法
- (2) 無形固定資産一定額法

2. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員および職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

役員の退職給付に備えるため、期末退職給付要支給額を計上しております。

職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

なお、過去勤務債務は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を発生翌事業年度から費用処理することとしております。

3. 収益の計上基準

「収益認識に関する会計基準」及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」を適用しています。当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

① 人材紹介事業

当社は転職希望者を紹介する成功報酬型の人材紹介サービスを提供しております。

よって、当事業にかかる営業収益は、原則として転職希望者が入社をした時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

② その他事業

その他事業にかかる営業収益は、当該業務を行い顧客の無形の資産が生じることにつれて一定の期間にわたり履行義務が充足される取引と判断しており、履行義務の充足に係る進捗を見積り、当該進捗に基づき収益を一定の期間にわたり認識しています。

Ⅱ 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の数に関する事項

株式の種類	普通株式
発行済株式数	400 株